株主のみなさまへ

第107期

中間報告書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

証券コード NO.2004

■当中間期におけるポイント

増収・減益

高付加価値商品への注力や販売価格の適正化などにより売上高は増加したが、穀物相場・原油価格の高騰や税制改正に伴う減価償却費の負担増などにより減益となった。

事業別の状況

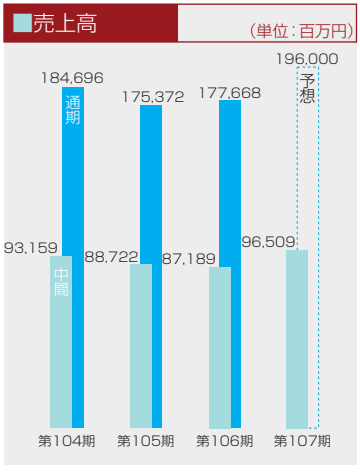
・食 品 事 業：販売価格の改定に取り組んだことなどにより増収となるも、輸入穀物相場の高騰などにより製造コストが膨らんだため減益。

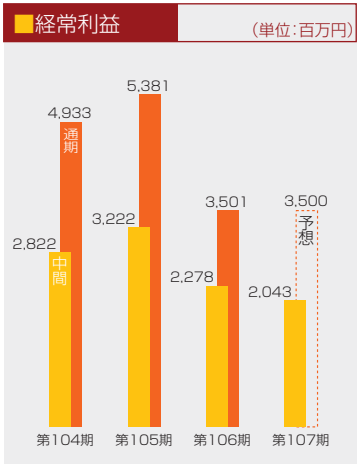
・飼 料 事 業：鳥インフルエンザの影響による一時的な落ち込みから回復したことや、穀物相場の高騰に伴う価格改定が奏功したことなどにより増収・増益。

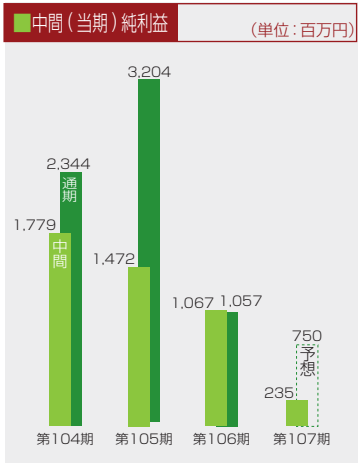
・倉 庫 事 業：吸揚・保管の荷役量の安定確保に取り組み増収となるも、税制改正に伴う減価償却費の負担増などにより減益。

・その他事業：量販店向け賃貸設備の賃貸価格の値下げなどにより減収・減益。

■連結業績の推移







「SHOWA-ism 計画 06-08」計画達成へ向けて
人々の健康で豊かな食生活に貢献してまいります。

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。
ここに、第107期上半期（平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）の事業概況をご報告するにあたり、謹んでご挨拶を申しあげます。
私たちは創業以来、大地の恵みである穀物を皆様の食生活にお届けする営みを続けてまいりました。
これからも皆様の食卓に「安心・安全」で「おいしい」食品をお届けするだけでなく、あらゆるステークホルダーの皆様から信頼を得られるよう、グループ社員が一丸となって企業の社会的責任を果たしてまいります。

代表取締役社長
横澤正克

Q1 社長に就任されて、グループの概況や経営方針などについてお聞かせいただけますでしょうか。

A1 **中期計画「SHOWA-ism 計画 06-08」を強力に推進していきます。**

昭和産業グループは、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という経営理念の下、小麦・大豆・トウモロコシなどの穀物を原料とする様々な食品素材を扱い、これらの素材を有機的に組み合わせて多彩なニーズに適した食の提案を行うなど、総合化独自路線を進めてまいりました。

昨年2月には創立70周年を迎えることができましたが、今後もさらなる改革とともに新たな発想を加え活性化を図ることで一層の発展を目指しております。

また、中期計画「SHOWA-ism 計画 06-08」の実施により、財務体質の改善やグループ経営の強化も軌道に乗ってきております。

そうした中で私は本年6月に社長に就任いたしました。以前は、経営企画部長として「SHOWA-ism 計画 06-08」の策定に関わってまいりましたので、計画を完遂すべく、「収益性の向上」「安心・安全・透明性の向上」「社員の質的向上」という3つの経営方針に従い、鋭意取り組む所存でございます。

具体的に申しあげますと、「収益性の向上」につきましては、粗利だけで判断せず実際の原価、その他の費用や手間を含めたコストを認識し、トータルの収益性を考えるよう全グループで徹底・推進しております。「安心・安全・透明性の向上」につきましては、食品企業においては絶対条件であると認識しておりますし、今後も徹底していきたいと考えております。「社員の質的向上」につきましては、引き続き人事制度や教育制度を充実させ、社員の現場力の向上を通じて、会社全体としてのレベルアップを図ってまいりたいと考えております。

Q2 第107期上半期の業績はいかがでしたでしょうか。

A2 研究開発の強化、人材育成に注力しつつ、コスト削減にも取り組みましたが、原料高を吸収できず、増収減益となりました。

当上半期における我が国経済は、米国のサブプライム・ローン問題に起因する金融市場の混乱など懸念材料はあったものの、好調な企業収益を背景に雇用情勢は改善し、個人消費が持ち直すなど、景気は緩やかながらも回復基調で推移してまいりました。

しかしながら食品業界におきましては、穀物原料価格はもとより海上運賃・包装資材価格の高騰により仕入れ価格の上昇に歯止めがかからず、経営環境は依然として厳しいものとなりました。

このような状況の中、当グループは高付加価値商品の開発・販売に注力し、収益性の向上を図るとともに、従業員・組織力のレベルアップを通じて経営基盤を強化するなど、中期計画「SHOWA-ism 計画 06-08」に基づいた施策を推進してまいりました。

これらの結果、当上半期の売上高は965億9百万円と前年同期に比べ93億20百万円の増収となりました。一方、利益面では輸入穀物相場・原油価格の高騰に加え税制改正に伴う減価償却費の負担増の影響などにより製造コストが嵩んだ結果、営業利益は22億72百万円と前年同期に比べ3億88百万円の減益となり、経常利益も20億43百万円と前年同期に比べ2億35百万円の減益となりました。中間純利益は、繰延税金資産の取り崩しによる税金負担額の増加の影響もあり2億35百万円と前年同期に比べ8億31百万円の減益となりました。

Q3 今期の業績を踏まえ、中期計画「SHOWA-ism 計画 06-08」の達成見込みなどについてお聞かせいただけますでしょうか。

A3 厳しい社会情勢の中、対策を講じて目標達成を目指します。

2006年4月を起点とする中期計画「SHOWA-ism 計画 06-08」では、3カ年計画の遂行により、2009年3月期連結決算で売上高1,800億円、経常利益は過去最高の65億円（経常利益率3.6%）の達成を目標としております。依然として原料穀物相場の高騰の影響などがありますが、製品価格の適正化、全社員でのコストダウン、高付加価値商品への取り組みなどの対策を図り、第107期は売上高1,960億円、経常利益35億円を目標としております。

中期計画では4つの基本姿勢を掲げておりますが、具体的な施策といたしましては次のような活動をしております。「改革の実現」では、生産部門・管理部門による徹底したコスト削減や内部統制の強化を進めております。「経営基盤の強化」では、設備投資の充実による生産効率の向上、部門間のシナジー効果を活かした商品開発などで売上高・販売量の伸長を図っております。また高付加価値商品分野に注力することで収益性の向上を図るとともに、社員教育の充実にも取り組んでおります。「グループ経営の強化・向上」では、幅広くグループ全体の支援協力体制を強化しております。「ＣＳＲの推進」につきましては食に関する社会貢献活動の推進、環境負荷低減策に取り組むとともに、そうした企業風土の形成を進めております。

「SHOWA-ism 計画 06-08」

ビジョン	お客様にとっての「ベスト・パートナー」になる
基本姿勢	1. 改革の実現 2. 経営基盤の強化 3. グループ経営の強化・向上 4. CSR の推進

Q4 企業の社会的責任（ＣＳＲ）の推進について、昭和産業グループが果たすべき課題は何でしょうか。

A4 全社的なＣＳＲ活動への取り組みにより社会との共生を目指します。

昭和産業グループは、「食」に関する幅広い事業を通して「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」とともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通して、社会との共生を目指していきたいと考えています。

私は、この数年ＣＳＲ委員長として、昭和産業におけるＣＳＲ推進体制の整備をしてまいりました。ＣＳＲ推進は、環境管理、製品安全、コンプライアンス、社会貢献、リスク管理など、「社会に対する責任」というだけでなく、経営の根幹を形成し、「社会における昭和産業グループの存在価値」そのものともいえます。

「昭和産業グループＣＳＲ行動規範」には、①安心・安全で高品質な製品の提供、②公正な企業活動、③人権尊重、④環境への配慮、⑤社会への貢献、⑥ステークホルダーとの対話・情報開示について、昭和産業グループの社員として心がけなければならない基本的な考え方を示しており、グループ全社員で意識を高め、一丸となって取り組んでおります。

「社会・環境レポート2007」
＊ホームページhttp://www.showa-sangyo.co.jpよりご覧いただけます。

Q5 株主還元策および今後の展開について、株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A5 安定配当を継続してまいります。

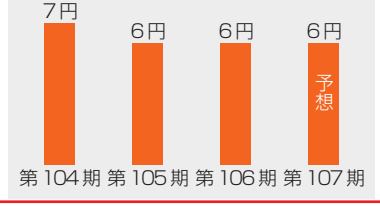
経営基盤のさらなる安定化を図りながら、株主の皆様に対して長期的に安定した配当を継続させていただくことを基本方針とし、「各期の連結業績に応じた利益配分」を実施してまいります。

前期は1株あたり６円を配当させていただきました。今後も、戦略的な事業投資など長期的な企業価値向上に資するための内部留保を充実させつつ、株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

また、株主優待制度としまして毎年１回自社製品をお送りし、「日本をおいしくするSHOWA」の味をご家庭で味わっていただく制度を導入しております。

株主の皆様におかれましては、尚一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

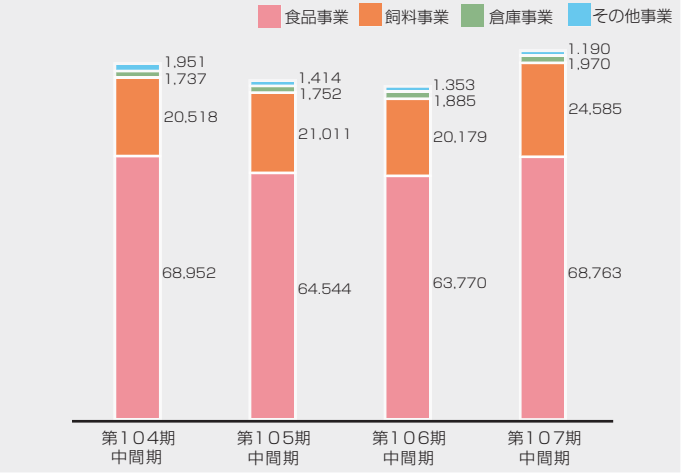
■１株当り配当金の推移



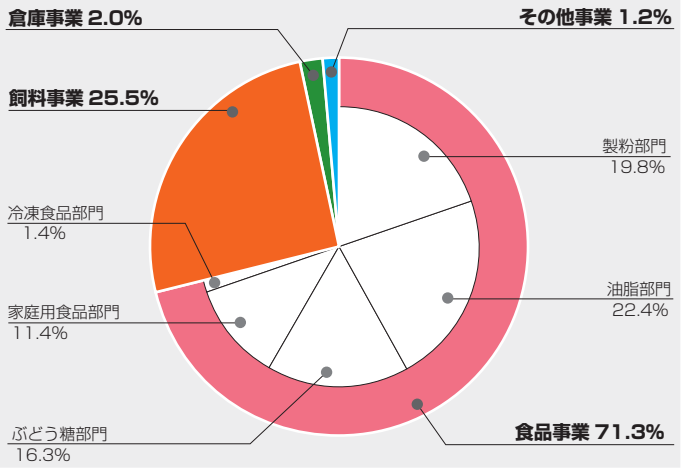
（注）第104期の配当金には創立70周年記念配当1円が含まれております。

■事業別売上高推移

（単位：百万円）



■事業別売上高構成比



食品事業

食品事業は、販売数量が前年同期を下回りましたが、販売価格については輸入穀物相場の上昇により全体的に前年同期を上回ったため、売上高は 687 億 63 百万円と前年同期に比べ 49 億 93 百万円（7.8%）の増収となりました。

■製粉部門

本年４月より、55 年ぶりに麦制度が変更され、外国産小麦の政府売渡価格が平均 1.3%値上げとなりました。これに伴い、小麦粉は、５月１日より 24 年ぶりの値上げを実施しました。また、提案型の営業活動を展開しましたが、食品需要低迷の影響を受け、販売数量は若干減少しました。プレミックスは、新製品の投入や講習会の開催などの販売促進活動を進めた結果、販売数量は増加しました。ふすまについては、海外穀物相場全体が上昇したことにより、販売価格は堅調に推移しました。

これらの結果、売上高は 191 億 63 百万円（前年同期比 3.1%増）となりました。

■油脂部門

食用油は、世界的な BDF（バイオディーゼル燃料）需要増加による原料価格の高騰に加え、海上運賃高騰やミールバリューの悪化等を起因としたコスト上昇が続いたことから価格是正を最優先した販売となりました。このような状況の下、従来からの業態別ユーザーへの取り組みに注力した結果、斗缶の販売数量は前年同期を上回ることができました。しかし、ミールについては中国・インドからの輸入ミール増加の影響により、前年同期を下回りました。業務用食材は天ぷら粉を中心とするプレミックス製品、パスタ製品ともに中食市場、加工メーカーへの販売強化･注力を進めた結果、前年同期を上回ることができました。

これらの結果、売上高は 215 億 82 百万円（前年同期比 13.4%増）となりました。

■ぶどう糖部門

糖化製品の販売のうち、異性化糖は夏場後半の猛暑により前年同期を上回りましたが、水あめは６、７月

687億63百万円（前年同期比7.8%増）

の天候不順、ビール系飲料の原料配合率変更の影響により、前年同期を下回りました。粉末水あめ等の機能性商品の販売は、提案型営業の強化により前年同期を上回りました。製品価格に関しましては、とうもろこし価格や海上運賃の高騰等によるコスト増を吸収すべく価格改定に努めました。

これらの結果、売上高は 157 億 24 百万円（前年同期比 11.8%増）となりました。

■家庭用食品部門

家庭用食品部門では、引き続き収益を重視した営業活動を行いました。食用油は、大容量サラダ油類の適正価格維持に努めると同時に、販売数量の確保に努めました。プレミアムオイルにおいては「オレインリッチ」の販売数量は前年同期を下回りましたが、新製品の「ヘルシープレミア」の拡販に努めたことにより、前年同期並みの販売数量を維持しました。主力の小麦粉、天ぷら粉、お好み焼き粉、ホットケーキミックス等は、年間計画に基づいた提案型の企画営業による拡販を図り、シェアの拡大に努めた結果、ミックス全体の販売数量は前年同期を上回りました。また、健康食品およびギフトセットにつきましては市場変化が影響し販売数量については前年同期を下回りました。 連結子会社　昭産商事株式会社では、家庭用米や調味料等の販売数量が前年同期を下回りました。

これらの結果、売上高は 109 億 83 百万円（前年同期比 1.5%増）となりました。

■冷凍食品部門

冷凍食品の販売数量は、コンビニエンスストア向けのたこ焼・外食向けのプチケーキの販売が好調に推移し前年同期を上回りました。

これらの結果、売上高は 13 億 9 百万円（前年同期比 3.6%増）となりました。

飼料事業

245億85百万円（前年同期比21.8%増）

配合飼料は、販売数量・販売価格ともに前年同期を上回り大幅に増収となりました。

主な増収要因は、養鶏用飼料で一昨年茨城県にて発生した鳥インフルエンザの影響による一時的な落ち込みから回復したことにより、販売数量が前年同期比で大幅に増加したことによります。また、販売価格でも海外穀物相場、海上運賃の高騰から第１四半期、第２四半期ともに配合飼料価格の値上げを実施し、価格改定に努めた結果、平均価格は前年同期を上回りました。

鶏卵においても、量販店向けの拡販等により販売数量・販売価格とも前年を上回り、売上高は前年同期に比べ増収となりました。

飼料事業全体では、当上半期の売上高は 245億85百万円と前年同期に比べ44億5百万円（21.8%）の増収となりました。

倉庫事業

19億70百万円（前年同期比4.5%増）

穀物サイロ関連では、搾油用大豆の備蓄削減による保管積数の減少などの影響を受ける中、主要取引先の貨物安定確保に注力し、吸揚・保管の荷役量が前年同期を上回った結果、増収となりました。一方、連結子会社　株式会社ショウレイにおける冷凍倉庫業務では、保管積数の減少により減収となりました。

これらの結果、倉庫事業の当上半期の売上高は、19億70百万円と前年同期に比べ84百万円（4.5%）の増収となりました。

その他事業

11億90百万円（前年同期比12.1%減）

不動産事業では、量販店向け賃貸設備の賃貸価格の値下げなどにより売上高が前年同期を下回りました。

この結果、その他事業の当上半期の売上高は、11億90百万円と前年同期に比べ1億63百万円（12.1%）の減収となりました。

さらに充実！

ご家族みんなの笑顔が見える今秋のニューフェイスをご紹介！

平成19年9月1日に発売された秋の家庭用新製品と、装いも新たにパッケージを一新しました人気製品をご紹介いたします。「作る楽しさ」「食べる楽しさ」を知る「食育」に加え、昨今の健康志向に対応し「おいしく食べて健康」をご家庭へお届けいたします。

親子で作る楽しさ、食べる楽しさをご提案！

まるめて焼くだけおやつパンミックス

新発売

内容量：380g（190g×2袋）
希望小売価格：220円（税別）

いよいよ手軽にスコーンタイプのパンが焼けます！しかもまるめて焼くだけで面倒な発酵がいりません。外はサックリ、中はふんわり。バターとミルクの味わいで、色々加えてアレンジもどうぞ。

人気の「手作りおやつ工房シリーズ」第４弾！

当社では、乳幼児から小学校低学年頃のお子様がいるご家庭に向けて、「親子で作る楽しさ」と「食べる楽しさ」をご提案する商品として『手作りおやつ工房シリーズ』を発売してまいりました。「おやつは毎日食べるものだから、子供の成長や健康を考え、できれば手作りして食べさせたい」、「子供の興味にも応え、一緒に手作りを楽しみたい」というニーズにお応えし、大変ご好評をいただいておりますが、なかでも「パン作りが手軽に楽しめる」商品は大人気です。

また、一昨年には「食育基本法」が施行され、「食育」への関心の高まりとともに、子供と一緒に食育を学ぶ重要性が叫ばれています。そこで、これらのご要望にお応えし、「作る楽しさ（簡単・便利・家族のコミュニケーション）、食べる楽しさ（おいしさ、安心・安全）」の体験から子供たちが学ぶ一助としてもどうぞお役立てください。

●商品に関するお問い合わせ先●
お客様相談センター
0120-325-706
受付時間：平日午前9時から午後5時まで

大好評23年「お釜にポンシリーズ」リニューアル！

ご飯を炊く時にお釜にポンと入れるだけ！
「お釜にポンシリーズ」は1984年の発売以来、長年にわたって多くのお客様の評価を得てまいりました。このたび、商品の品質特徴や評価されている点をわかりやすく表現することで、お客様が選びやすく、また、新たなお客様を獲得できるようにデザインを一新いたしました。

■■■お釜にポン

1～2合用の「お釜にポン　小粒くん」もリニューアル！

内容量：3～4合用×15粒
希望小売価格：480円（税別）

使い方簡単！炊き上がりは白米そのまま、おいしさもそのままです。お茶碗１杯で、ビタミンEが10mg摂取できます（３合に１粒使用時）。

ビタミンが摂取できて白米もおいしい！

健康意識の高まりから、「家族の健康を気遣い何か加えて炊きたいけれど、実際は白いご飯が好まれる」という声に応え企画された本商品は「白米のおいしさそのままに炊け、ビタミンEが摂れる」ということで大変好評をいただいております。

■■■お釜にポン　玄米の恵み

内容量：1～2合用×15粒
希望小売価格：570円（税別）

炊き上がりは白米そのまま、おいしさもそのままで、発芽玄米で注目されているＧＡＢＡ（1粒で15ｍｇ）や、ビタミンＥ、玄米はい芽油が手軽に摂取できます。

家族も喜ぶ、おいしく体によい玄米！

お米マーケットで最近話題になっているのが発芽玄米や雑穀米ですが、調査によると「炊くのが難しそう、使ってみたけれど家族が嫌がる、おいしくない」という声が聞かれました。そんなお客様のご要望にお応えし、1粒に手軽でおいしい玄米の恵みを凝縮しました。

大地の豊かな恵みヘルシーパスタセットに新シリーズ登場!!

休日に、ご家族揃って食卓を囲み、だんらんしながら体にやさしい野菜たっぷりのおいしいパスタを食べてもらいたい。ご家族みんなのからだ、健康を思いやる気持ちをこめて贈るパスタギフトセットです。トマトとほうれん草の2種類の野菜を練り込んだパスタに、たっぷりの野菜を煮込んだパスタソース、そしてパスタ料理には欠かせないオリーブ油を詰め合わせました。

従来のＤＨシリーズに加えて、ソースの内容を一新したＹＰシリーズを発売しました。具材感を充実させ、大地の豊かな恵みを実感いただけるパスタギフトセットとなりました。

連結財務諸表

■中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	58,727	50,965
固定資産	95,603	96,100
有形固定資産	74,401	75,695
無形固定資産	431	424
投資その他の資産	20,770	19,981
資産合計	154,330	147,066
負債の部		
流動負債	66,615	60,118
固定負債	37,513	34,930
負債合計	104,129	95,049
純資産の部		
株主資本	45,100	45,725
資本金	12,778	12,778
資本剰余金	9,007	9,007
利益剰余金	23,429	24,004
自己株式	△ 114	△ 63
評価・換算差額等	4,382	5,437
その他有価証券評価差額金	4,395	5,428
繰延ヘッジ損益	△ 12	9
少数株主持分	718	853
純資産合計	50,201	52,017
負債及び純資産合計	154,330	147,066

（百万円未満は切捨表示しております。）

■中間連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	当中間期 平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月 1日から 平成18年9月30日まで
売上高	96,509	87,189
売上原価	80,444	70,046
売上総利益	16,065	17,142
販売費及び一般管理費	13,792	14,481
営業利益	2,272	2,660
営業外収益	620	522
営業外費用	849	904
経常利益	2,043	2,278
特別利益	41	147
特別損失	478	196
税金等調整前中間純利益	1,606	2,229
法人税、住民税及び事業税	1,014	832
法人税等調整額	410	255
少数株主利益	—	74
少数株主損失	54	—
中間純利益	235	1,067

（百万円未満は切捨表示しております。）

■中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	当中間期 平成19年4月　1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月　1日から 平成18年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,238	3,662
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,194	△ 5,637
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,974	△ 654
現金及び現金同等物の増減額	541	△ 2,628
現金及び現金同等物の期首残高	3,544	4,213
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	―	443
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,085	2,027

（百万円未満は切捨表示しております。）

■中間連結株主資本等変動計算書（当中間期 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	12,778	9,007	24,004	△ 63	45,725	5,428	9	5,437	853	52,017
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,082		△ 1,082			―		△ 1,082
中間純利益			235		235			―		235
過年度税効果等調整に伴う剰余金の増加額			272		272			―		272
自己株式の取得				△ 50	△ 50			―		△ 50
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）					―	△ 1,032	△ 22	△ 1,054	△ 135	△ 1,190
中間連結会計期間中の変動額合計	―	―	△ 574	△ 50	△ 625	△ 1,032	△ 22	△ 1,054	△ 135	△ 1,816
平成19年9月30日残高	12,778	9,007	23,429	△ 114	45,100	4,395	△ 12	4,382	718	50,201

（百万円未満は切捨表示しております。）

■中間貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	42,278	35,860
固定資産	78,963	78,385
有形固定資産	57,922	58,419
無形固定資産	256	256
投資その他の資産	20,783	19,709
資産合計	121,241	114,246
負債の部		
流動負債	43,585	38,963
固定負債	29,195	25,337
負債合計	72,781	64,300
純資産の部		
株主資本	44,114	44,579
資本金	12,778	12,778
資本剰余金	9,007	9,007
利益剰余金	22,444	22,858
自己株式	△ 114	△ 63
評価・換算差額等	4,345	5,365
その他有価証券評価差額金	4,342	5,359
繰延ヘッジ損益	3	6
純資産合計	48,460	49,945
負債及び純資産合計	121,241	114,246

（百万円未満は切捨表示しております。）

■中間損益計算書

（単位：百万円）

科目	当中間期 平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月 1日から 平成18年9月30日まで
売上高	62,896	56,338
売上原価	51,066	43,547
売上総利益	11,829	12,791
販売費及び一般管理費	9,776	10,284
営業利益	2,053	2,506
営業外収益	492	384
営業外費用	679	572
経常利益	1,866	2,318
特別利益	8	140
特別損失	496	144
税引前中間純利益	1,378	2,314
法人税、住民税及び事業税	851	680
法人税等調整額	△ 140	243
中間純利益	668	1,390

（百万円未満は切捨表示しております。）

会社の概要（平成19年9月30日現在）

■設立　昭和11年2月18日
■資本金　12,778,008,177円
■従業員数　1,047名
■本社所在地　〒101-8521
東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル

■事業所
大阪支店／名古屋支店／仙台支店／札幌支店
福岡支店／広島支店／関東信越支店／千葉出張所
南九州出張所／鹿島工場／神戸工場／船橋工場
総合研究所／食品開発センター

■役員

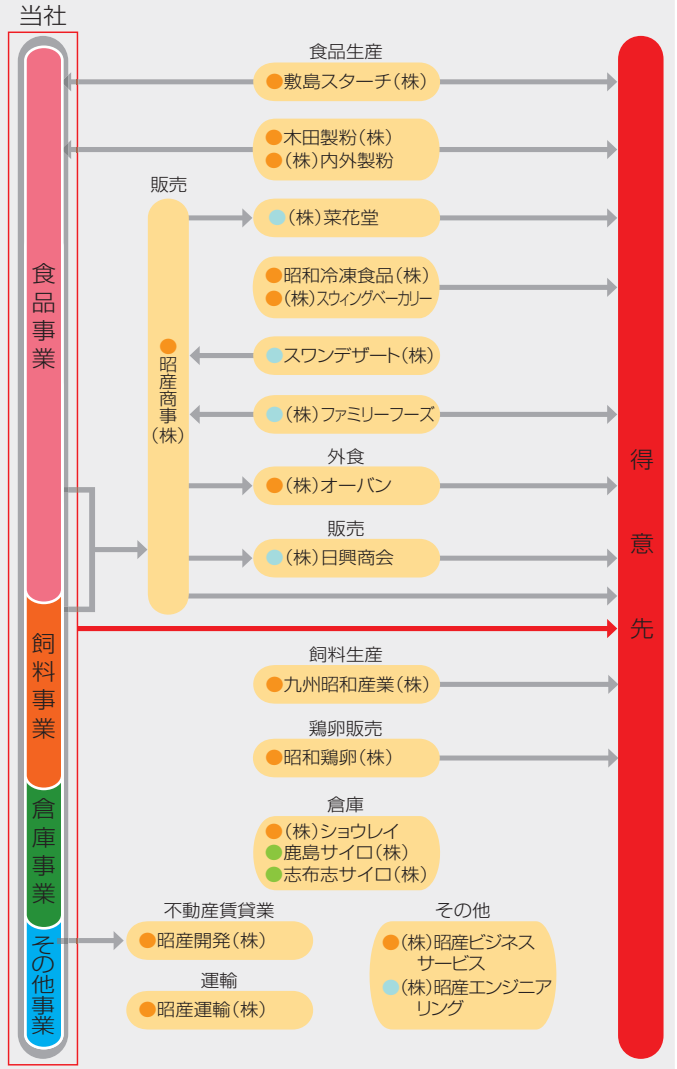
● 取締役および監査役

取締役会長（代表取締役）	福井茂雄
取締役社長（代表取締役）	横澤正克
専務取締役	栗原忠夫
常務取締役	金澤多計志
常務取締役	信岡正治
常務取締役	御法川修
常務取締役	佐久間潤
監査役（常勤）	細川純治
監査役（常勤）	小島幸弘
監査役	中台好弘
監査役	宍戸敏雄

● 執行役員

執行役員	石居義生
執行役員	田中富男
執行役員	小川敏郎
執行役員	岡田茂
執行役員	四宮哲爾
執行役員	村井眞哉
執行役員	笠井敏雄
執行役員	中井千晃

■グループの概要



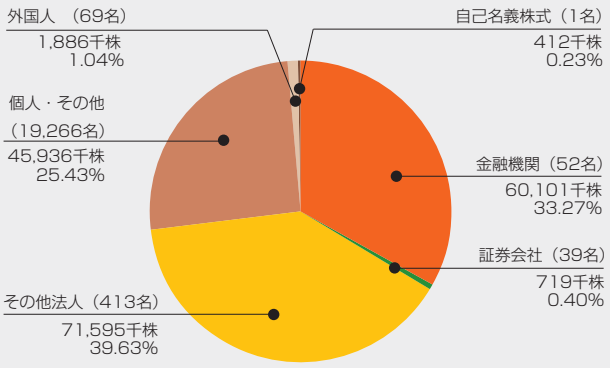
■株式の状況

発行可能株式総数――――――720,000,000株
発行済株式の総数――――――180,649,898株
株主数――――――19,840名

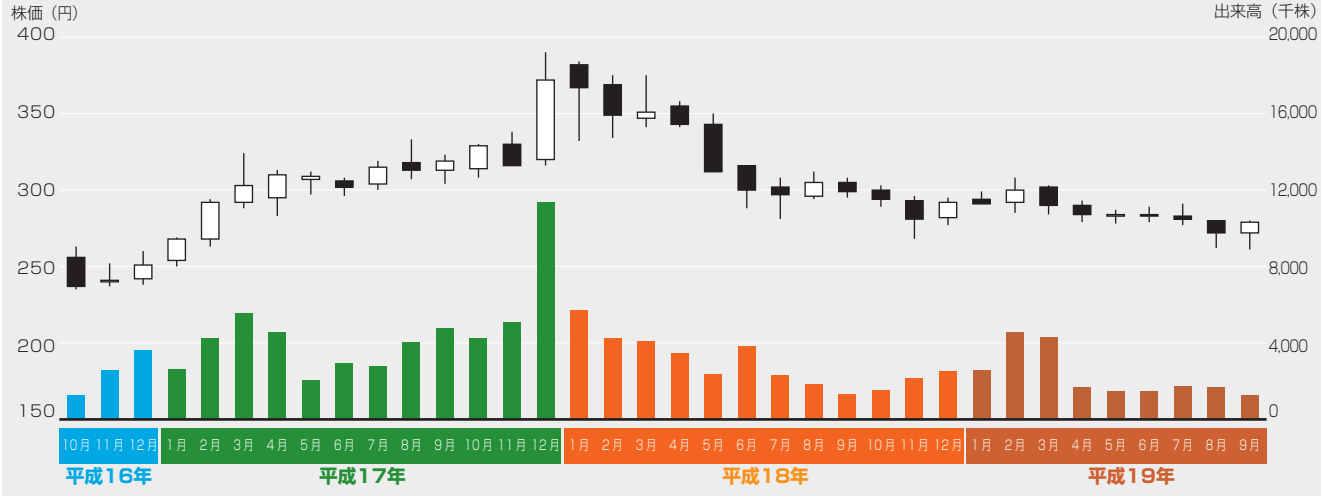
■大株主（上位10名）

株　主　名	所有株数	出資比率
伊藤忠食糧販売株式会社	17,372,000株	9.61%
双日株式会社	11,525,016	6.37
日本興亜損害保険株式会社	8,545,501	4.73
株式会社千葉銀行	7,875,528	4.35
三井物産株式会社	7,700,000	4.26
農林中央金庫	5,515,396	3.05
東京海上日動火災保険株式会社	5,169,328	2.86
ユアサ・フナショク株式会社	5,165,600	2.85
株式会社カーギルジャパン	4,701,000	2.60
株式会社みずほ銀行	4,596,582	2.54

■所有者別株式分布状況



■株価と出来高の推移



株主優待制度のお知らせ

Shareholder Special Benefit Plan

当社では、株主様へのご優待サービスとして、年１回、自社製品をお送りしております。
ご家庭の食卓で「日本をおいしくするSHOWA」の味をお楽しみください。

■対象は毎年基準日（3月31日）時点で、1,000株以上保有の株主様に対し、自社製品を以下の基準により贈呈いたします。

■お届けは毎年７月上旬になります。

■来年の商品内容については未定となっております。

＊写真は平成19年7月にお送りしたものです。

■5,000株以上保有の株主様
→5,000円相当の自社製品を贈呈。

■1,000株以上5,000株未満保有の株主様
→2,000円相当の自社製品を贈呈。

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
公告の方法	日本経済新聞に掲載
基準日	3月31日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 ☎0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　各支店 野村證券株式会社　本店・支店
	○株式関係のお手続用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。 ☎0120-244-479（本店証券代行部） ☎0120-684-479（大阪証券代行部） http://www.tr.mufg.jp/daikou/
1単元の株式数	1,000株

シェフのおすすめレシピ

SHOWAから商品を使った簡単レシピのご紹介です。
「ひまわりネット http://www.himawarinet.com」では、レシピの紹介や各種キャンペーン情報など盛りだくさんでお届けいたしております。
みなさん是非一度アクセスしてみてください。

「昭和天ぷら粉 黄金」で
●ホワイトチョコレートケーキ●

シェフのお勧め言葉

天ぷら粉を使うとスポンジケーキもおてのもの。バターなしで軽く焼き上げました。

シェフのコツ

小麦粉代わりに「昭和天ぷら粉　黄金」を使ったスポンジは、ふくらみが安定していて口当たりはしっとりソフト。初心者でも上手に作れます。

シェフのひと工夫

ココアを入れないで焼くと、基本的なスポンジケーキになります。ショートケーキなどにアレンジできます。

● 材料 ●

直径18cmのケーキ型1個分

卵白	3 個分
砂糖	100g
(a) 卵黄	3 個分
(a) バニラエッセンス	少量
(a) 水	大さじ 2
(b) **昭和天ぷら粉　黄金**	1 カップ（100g）
(b) ココア（ピュア）	大さじ 2
水（シロップ用）	大さじ 2
砂糖（シロップ用）	20g
(c) 生クリーム	1 と 1/2 カップ
(c) 砂糖	大さじ 1 と 1/2
ホワイトチョコレート	25g
いちご（4 つ切りにする）	2 個

● 作り方 ●

①卵白はふんわり泡立て、さらに砂糖を3回に分けて加えながらかたく泡立てます。
②そこに（a）を加えて泡立て器で色が均一になるまで混ぜ、続いて（b）を混ぜた粉をふるい入れ、ゴムべらでサックリと粉が見えなくなるまで混ぜます。
③紙を敷いたケーキ型に流し入れ、表面を平らにし、170℃のオーブンで30～35分焼き、型から抜いて網にのせてさまします。（c）は氷水にあてながら6～7分立てにします。
④③のスポンジを上が平らになるように薄くそぎ落とし、厚みを3等分に切り、それぞれの片面にシロップを塗り、泡立てたクリームを薄く塗って重ね、表面全体にもクリームを塗ります。
⑤残ったクリームをもう少し泡立て、絞り出し袋に入れて上面の周囲8カ所に丸く絞り出し、いちごを飾り、チョコレートをナイフで薄く削ってのせます。

昭和産業株式会社

〒101-8521　東京都千代田区内神田二丁目2番1号　鎌倉河岸ビル
TEL.　03（3257）2011　FAX.　03（3257）2180
http://www.showa-sangyo.co.jp

R100　PRINTED WITH SOY INK

本報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、「大豆インク」で印刷しています。